

## 2 放送記録

「にっぽんの歌」は、概ね半年ないし一年間隔で司会者が入れ替わっていた。そこで、司会者交代のタイミングで期間を区切って放送記録をまとめることとした。

各回の放送記録の凡例は以下のとおりである。

<b>①サブタイトル・放送回</b>	<b>②出演者</b>
<b>③曲目(歌唱者)</b>	<b>④放送概要</b>

以下は、各凡例の特記事項である。

### 1 放送回

国立国会図書館所蔵の番組台本には放送回と放送日の双方の記載があるため紐付けが可能だが、所蔵台本は放送初期のものにとどまり、第66回分が確認できる最も後年の台本である。新聞紙面には放送回情報は記載されていないため、第67回以降の放送回は推測のみでの記載となっている。

昭和50年12月29日放送分は唯一の200回記念特集であり、ちょうど“#200”となったため、第200回までの記載は正確であると考えられるが、それ以降の記載にはずれが生じている可能性がある。なお、昭和54年1月3日放送分の単発放送を制作局側が放送回にカウントしているかどうかは不明であるが、本書においては便宜上“第318回”として記載した。

### 2 曲目

既公開の「なつかしの歌声」及び「帰ってきた歌謡曲」の放送記録では、曲目名は原則として最初に発売されたオリジナルレコードの表記に準拠してきた。しかし本書では、番組内で紹介されたと思われる曲目名を採用することとした。例えば、「婦系図の歌」は「湯島の白梅」、「復活唱歌」は「カチューシャの唄」、「明治一代女の唄」は「明治一代女」といった具合である。このような表記としたのは、放送当時の視聴者に近い感覚を再現し、その受容形態に接近することを意図したためである。